

第2学年〇組 算数科学習指導案

令和2年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 たし算とひき算のひっ算(1)

2 単元の目標

- (1) (2位数) ± (2位数) の筆算の仕方を理解し、計算することができる。
- (2) 十進位取り記数法の仕組みを基にして、(2位数) ± (2位数) < 100 の筆算の仕方を考えることができる。
- (3) 筆算のよさに気付き、活用しようとする。また、加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、答えの確かめに生かそうとする。

3 学習の計画 (11 時間完了)

- 第1次 第1時 (2位数) + (2位数) の筆算による計算の仕方を考える。
 第2時 (本時) (2位数) + (2位数) で一の位が繰り上がる筆算をする。
 第3時 いろいろな加法の筆算をする。
 第4時 加法の答えの確かめをする。
 第5時 加法の筆算の練習問題に取り組む。
 第2次 第6時～第10時 (2位数) - (2位数) の筆算をする。
 第3次 第11時 単元を振り返り、確認問題に取り組む。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 一の位が繰り上がる加法の仕方を理解し、その計算を筆算ですることができる。
 - 一の位が繰り上がる (2位数) + (2位数) の筆算の仕方を考えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児 童……計算棒
 - 教 師……掲示用計算棒、位取り板
- (3) 関 連
 - 2年 算数 たし算とひき算 (繰り上がりや繰り下がりのある (2位数) ± (1位数))
 - 2年 算数 たし算とひき算のひっ算(2) ((2位数) + (2位数) ≥ 100 とその逆の減法)
 - 3年 算数 たし算とひき算の筆算 (3位数や4位数の加減の筆算)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかむ	1 本時の学習課題について考える。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 ○ 34+12の計算を筆算でする。 (2) 本時の学習課題をつかむ。 ○ 34+28の計算を考える。 一のくらをたすと、10をこえるひっ算のしかたを考えよう。	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に学習した繰り上がりのない筆算を基にして、一の位同士から順にたしていくことを確認する。 ○ 本時の学習課題を提示し、繰り上がりのなかった前時との違いを見付けさせる。 ○ 具体的な場面をいくつか提示し、計算の必要性を実感させる。
追究する	2 繰り上がりのある筆算の仕方を解決する。 (1) 計算棒を操作して、繰り上がりの仕組みをつかむ。 ・一の位と一の位をたすと、十のまとまりが一つ増えたので、十の位に移動させる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示用の計算棒で繰り上がりの操作を示し、児童にも同じように操作させ、繰り上がったことによって十のまとまりが一つ増えていることをつかむようにさせる。

追 究 す る	(2) 繰り上がりの仕組みを基に、筆算の仕方を考える。		○繰り上がりの「1」をどこにかけばよいかを計算棒で操作したことを基に考えさせる。															
	<div>予想される児童のかき方</div> <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3 4</td><td>3 4</td><td>3 4</td></tr><tr><td>+ 2 8</td><td>+ 2 8</td><td>+ 2 8</td></tr><tr><td>6 2</td><td>6 1 2</td><td>5 1 2</td></tr></table>	A	B	C	1			3 4	3 4	3 4	+ 2 8	+ 2 8	+ 2 8	6 2	6 1 2	5 1 2	20	○Cの方法で考えた児童には、筆算では同じ位の数を縦に並べてかくこと、十のまとまりが一つ増えたこと、答えが違っていることなどを助言する。
	A	B	C															
	1																	
3 4	3 4	3 4																
+ 2 8	+ 2 8	+ 2 8																
6 2	6 1 2	5 1 2																
(3) お互いに自分の考えた計算の仕方を発表する。			評一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を計算棒の操作を基にしながらやっている。(ノート)															
・繰り上がりの「1」を(どこ)にかきました。その理由は、(理由)だからです。			○理由も付けて説明させる。															
(4) 繰り上がりのある筆算の仕方を発表し、まとめる。			○AとBの考え方がお互いに発表された場合は、どちらがよいかき方なのかを話し合わせない。															
・繰り上がった「1」を十の位の一番上にかいておいて、十の位に加えること			○AとBの両方の考え方が発表された場合は、Bの考え方も間違いではないが、今回はAの考え方で統一して行うことを伝える。															
(5) 筆算の計算の仕方を言葉で唱える。		30	評一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を説明している。(発表)															
3 繰り上がりのある筆算の仕方を、問題を解いて練習する。			○十の位に「1」繰り上げることを強調する。															
		40	○理解が不十分な児童には、計算の仕方を唱えながら行わせる。															
			評一の位が繰り上がる加法を筆算で正しく計算している。(ノート)															
4 本時のまとめをする。			○繰り上がることによって新たに10のまとまりができることを中心に本時を振り返らせる。															
○繰り上がりのある筆算の仕方を振り返ってまとめをする。		45																

(5) 本時の評価規準

- 一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を説明し、正しく計算している。(発表、ノート)
- 一の位が繰り上がる(2位数) + (2位数)の筆算の仕方を、計算棒の操作を基にしながら考えてかいている。(ノート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 計算問題のように決められた手順に従って答えを出すという活動は、好きな児童が多い。しかし、なぜそうなるのかを深く考えずに形式的な操作で答えだけを求める傾向が強い。

(2) 指導の力点

- 本時は、一の位が繰り上がる(2位数) + (2位数)の仕組みを計算棒の操作によってつかませ、それを筆算の形でどのようにかけばよいかを考えさせることで、筆算の仕方を身に付けさせる。計算の意味を考えずに、形式的な操作で答えを出すことが多い児童に対し、操作活動によって計算の意味をつかませ、問題を解決させる。そこから、十進位取り記数法の考え方を使って筆算ができるように指導する。

6 指導と評価